





飛行機救難艇  
警備軍所屬  
海防艇  
引渡書

別紙舟艇を香川縣知事に引渡します

昭和二十二年六月十六日

吳地方復興局長

香川縣知事 殿

0003

海軍

船名	艇種	所	在	現	狀	記	事
三一三六	飛行機救難艇	高松市四國造船所		機骨及肋骨一部のみ		を	終戦により建造中止した
一七三三	海防艇			機骨のみ			

(美濃紙乙)

0004









舊海軍所屬 飛行機救難艇  
海防艇 引渡書

別紙舟艇を香川縣知事に引渡します

昭和二十二年六月十六日

香川縣知事殿

吳地方復興局長

0008

海軍

別紙		艇名	種所	在現	状記	事
三一三六	・	飛行機救難艇	高松市四國造船所	龍骨及肋骨一部のみ	終戦により建造を中止した	
一七三三	海防艇	・	・	龍骨のみ	・	

(美濃県紙乙)

0009



飛行機救難艇  
一 現 状  
三 引渡物件

三、一、二八  
キール及び肋骨の一部のみ  
ト  
シ

(終)

0010

飛行機救難艇

マ現 状

三引渡物件

三一三六

キール及び肋骨ノ一部

ナシ

(終)

0011

海防廳  
一、現狀  
三、引渡物件

一七三三  
キール及ビ  
ナシ  
骨ノ一部ノミ

終

0012

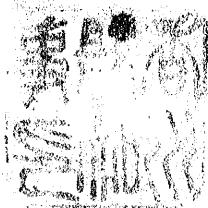
海軍所屬  
飛行機救難艇  
海防艇  
受領証

別紙舟艇を奥地方復興局より受領しました

昭和二十二年六月十六日

香川縣知

奥地方復興局長 殿



0013



海軍

別紙									
艇名	艇種	所存	現狀	配					
三一二八	飛行機救難艇	高松市四國造船所	完成度五五% 龍骨及肋骨一部のみ	終戦により建造を中止した					
三一三六	・	・	完成度一五%	・					
二七三三	海防艇	・	完成度四五% 龍骨のみ	・					

(美濃原紙乙)

0014

廣島第一七三號

舊海軍所屬雜舟艇領收證

關紙舟艇を奥地方復員局より受領した

昭和二十二年六月一日

廣島縣知

奥地方復員局長 殿



0015

別紙

船名	船種	噸數	馬力	備所	現在地	現狀	備考
大船	六二二九	二二五	石油	八〇	吳	沈没	財務局保管
水船	二四一七	二五〇					
水船	二八四六	二五〇					
水船	RR	一七	石油	一五〇	岡山		
水船	〇三六				高松		
水船	三七三五	四五	石油	六〇	吳		
水船	八八二	三〇〇	石油	一五〇	大竹		

海軍

(英波野紙乙)

0016

月

吳地方復員局総務部長

舊海軍所屬船隻引渡書

別紙舟艇を廣島縣知事に引渡します

昭和二十二年六月一日

吳地方復員局長

廣島縣知事殿

0017



船種	船名	電機	燃料	馬力	積所	現在地	現状	記事
大船	六一三九	一三五	石油	八〇	奥會	奥	沈没	財務局保管
水雷艇	八八二	二〇〇	石油	一五〇	大竹	良	引渡	
水雷艇	二八四六	一七〇	石油	一五〇	岡山	良	引渡	二二一三二八米軍
水雷艇	二四一七	二五〇	石油			良	引渡	二二一三二六米軍
水雷艇	一六一二							
水雷艇	一六〇八							
水雷艇	一三五二						損傷	
水雷艇	一六〇二						沈没	
水雷艇	七〇三六					高松		敵部引渡
水雷艇	七三三五		石油	六〇	奥		修理	二二一五一四米軍

海軍

(英渡紙乙)

0018

司令長官 司令官 參謀長 首席參謀 幕僚  
 通信參謀 司令部附  
 艦長 司令 副長 營長 副將 關係者  
 通信長 電信部 電話部

海軍電報起案譯文用紙

番號	定指	發信所	受信所
一五	イナリ	東京	
所	信	受	
260	17		
者	信	者	
引渡艦	第三回米軍	橫濱 佐澤 吳 復	
者	報	受	
引渡艦	第三回總	改復 早崎 荒崎 若鷹 白崎	
分區	整理	者	信
		總裁	復員廳

米國引渡艦、引渡要領左ノ通、  
 一 釋 櫻 海 36、橫須賀回航 橫濱復局長ヨリ米海軍ニ引渡ス 其他、五隻ハ解撤、為第三項所定造船所ニ引渡（以下八字不列）  
 二 海 36、七月十九日ヨリ九日ヨリ、橫須賀ニ帆高ハ七月十九日ヨリ〇〇浦賀ニ到着セヨ  
 海 36、七月二十日 舞鶴港長崎ニ回航セヨ  
 （本電 部外 秘）

7  
 日 送信時刻  
 20  
 作成時刻  
 20  
 編譯者  
 50  
 編譯者  
 あり  
 記事

通信文  
 平文呼號  
 無線有線

附表第一  
 一様式第一

0019

整理番號

電波

9630

頁 0







通信部長  
電信部  
暗號部

艦長  
(司令)  
副長  
常任將校  
關係者

通信參謀  
司令部附

官  
官  
長  
參謀  
僚

海軍電報起案譯文用紙

月	日	送信時刻	作成時刻	作成者	記事	三、極力陸揚ス 陸揚物件ハ之ヲ内務省ニ引渡サズ一括管船部 =保管シ 但シ糧食被服燃料潤滑油消耗品ハ 補給部ニ還納ス 四、報告書類中現状調書ハ之ヲ削除ス	番號	定	指	艦發信所	艦送信所		
							所	艦	信	受			
							者	信	着				
							者	報	受				
						無線有線	分	區	理	整	者	信	發
0022						整理番號	電波		K. O.				

附表第一 (様式第一)

河野

奥書第四二二號

昭和二十二年七月三十日

奥地方復興局總務部長

海防廳海軍引渡を左の通り決定する

七月三十一日 一七〇〇奥船（D二九番浮標に寄附）

八月一日 〇九〇〇打合（〇八三〇海防廳發自動車を出す）

場所 船内

参観者 總務部、管船部、補給部、造船課各一名

船長、各料長

- 二日 目録作製
- 四日 物件陳列場、現狀調査（*トビ、ミドリ*）
- 五日 一〇〇〇船上に於て引渡式 式後職員退席

(終)

0023

吳復第 四二三號

昭和二十二年七月三十日

吳地方復員局 總務部長

廣島縣 總務部長殿  
廣島財務局 總務部長殿  
中國海運局 船務部長殿

舊海防艦操提引渡の件 通知

舊海防艦操提は今般播磨造船所吳船渠に於て解撤の事に決定したから八月  
九日一〇〇〇同艦上に於て引渡式を行ふに付代表者は非出席され度い  
尙立會者は印判を携行され度い

寫送付先

吳管財出張所  
中國海運吳支局

0024

昭和二十二年七月三十日附

発 見 ComNavFe 吳代表 F.R.トレイ

宛 吳地方復員局長

DE 擇提 解体ニ関スル件

参照 A ComNavFe 報 二九〇七〇八二 (昭三三セ)

一、米海軍連絡官ノ命アリ次第閣聯文書 Aニ依リ主題

艦船ヲ最終解体ノタメニ吳幡磨造船會社へ引渡スト

ヲ許可ス

二、解体ニ先立テ吳地方復員局が全テノ需由消費品、器

具ヲ移動除去シ該品ヲ処理最後決定マテ保管スル

コトヲ許可ス

三、本艦ハ四ヶ口ニヨル最近ノ抽籤ニヨリ割当テラレタル米政

府ノ所有物ナル故本艦及ソノ内容ハ何レモ進駐軍

(英漢辭紙乙)

0025

海軍

ノ防害ヲ示ス

四、異地方復員局ハ本艦上ノ目立テル箇所ニ左記ノ立札ヲ設置スベシ

"KEEP OFF"

PROPERTY OF THE US GOVERNMENT.

(終)

(美濃野紙)

海軍

0026





引渡書

舊海防艦樞を内務省に引渡します  
但し大藏省を経て播磨造船所吳船渠に引渡しの方

昭和二十二年八月五日

吳地方復員局長

矢 牧

廣島縣知事 常 務 殿

立會人

廣島財務局長

中國海運局長

播磨造船所吳船渠所長

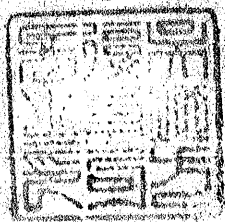
代理

伊丹良雄

代理

大桑一雄

章



0028



引渡書

舊海防艦艇を内務省に引渡します  
但し大蔵省を経て播磨造船所吳船渠に引渡しの方

昭和二十二年八月五日

吳地方復興局長

矢 牧

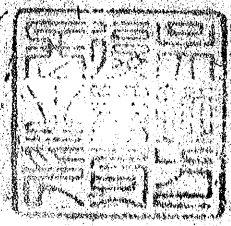
廣島縣知事  
楠 瀬 常 猪 殿

立會人

廣島財務局長

中區海運局長

播磨造船所吳船渠所長



伊丹直統  
大川翠一  
代理

0029





舊海防艦擄捉を受領しました

昭和二十二年八月五日

領收書

廣島財務局長  
高橋 衛

衛 殿

立會人

吳地方復興局長代理 河野克次

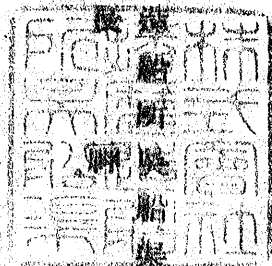
廣島縣知事

代理 安藤公夫

中國海運局長

代理 伊藤 長

指所



保

敏

男

0030

海防盤 標 目

海防盤

全長	70.5	米
最大幅	9.1	米
吃水	5.1	米
排水量	1,020	噸
最大馬力	19.5	馬力

10031

河野邦彦

復元第四三七號

昭和二十二年八月五日

復元第二復元局長殿

奥地方復元局長

一 引渡書 提出  
 一 酒收書  
 一 陸揚物件目錄 各二冊  
 一 引渡物件目錄

但し舊海防縮摺捉仁對する分  
別紙添

0032

通信部長  
電信部  
暗號部

司令官  
副官  
當直將校  
關係者

通信參謀  
司令部附

司令官  
參謀長  
首席參謀  
幕僚

海軍電報起案譯文用紙

河部員

8月 8日 送信時刻 17 00 作成時刻 17 05 作成者 岡 記事	三、陸揚少物件又ハ引渡物件中至急他取ハ、取用ヲ 必要トス場合ハ目録ト照合、上願出之度 二、右ニ関シ連、擇定ノ具ニ於テ引渡書類至急送 附ヲ乞フ 一、莫ニ回米國渡シ解致取ノ陸揚少物件處分ニ 関シテハ近日中ニ指令アル事	番號 六	定指 シイ ナリ	發送所 東放	發送所 東放		
		通信文 平文暗號( ) ( )無線有線	所 繼 信 受 22.1548	者 信 着 吳 橫 各 郵 復 佐	者 報 受	分 區 理 整 者 信 發 二復 総	附表第一 (様式第一)
		整理番號 15	電波 9260	K.C.	0033		

通信部長  
電信部  
暗號部

艦長 (司令)  
副長  
當直將校  
關係者

通信參謀  
司令部附

司令長官  
參謀長  
首席參謀  
幕僚

海軍電報起案譯文用紙

8月 14日	送信時刻 12:35	作成時刻 12:47	作成者 石川	記事	海防艇一〇九 宮城縣村上造船所 一三三 靜岡縣美保造船所 一七三(及)一七三二 香川縣四國造船所	左記海防艇ヲ行動不能艇ヨリ削除ノ件許可セ ルニ總務部第五番處(五月三十一日)ノ要領ニ準 テ務省ニ移管セラル(艦艇名所在ノ順)	通信文 平文暗號( ) (無線)有線	番號	定指	艦發信所	艦送信所
								二	イリ	中放	受
								所	艦	信	受
								セ/0.05キ/4			
								者	信	着	
								横 吳 復			
								者	報	受	
								復 然			
								分	區	理	整
								電波 9260 K.C.			

0034

整理番號

電波

9260

K.C.

附表第一 (様式第二)



通信長  
電信部  
暗號部

艦長  
(司令)  
副長  
當直將校  
關係者

通信參謀  
司令部附

司令長官  
司令官  
參謀長  
首席參謀  
僚

海軍電報起案譯文用紙

月	日	受信時刻	作成時刻	作成者	記事	通信文	平文暗號( ) (無線有線)	番號	定	指	艦發所	艦送所
								所	艦	信	受	
						(一) 橫濱 五二五(前三一三三) 五二五二(前三一三三) 以上二隻	(無線有線)					
						(二) 吳 五二八(前三一三六) 五二九(前三一三九)						
						(三) 佐賀 五二九						
						(四) 舞臺 五三五(前三一三五) 五三六(前三一三九)						
						(五) 長門 一六(雜船 五七九)						
						(六) 工事進捗 五(リスト) = 記載ニアラザル未成船						
						(七) 橫濱 海防艦 一七八、一七九、一七〇、一七二、一七三、一七四						
						(八) 一七五、一七六、一七七、一七八、一七九、一八〇、一八一、一八二						

2

附表第一 (様式第一)

0036 整理番號 | 電波 | K.C.

暗號部  
電信部  
通信長

關係者  
當直將校  
副長  
(司令)  
艦長

通信參謀  
司令部附

幕僚  
首席參謀  
參謀長  
司令官  
司令長官

紙用文譯案起報電軍海

月	日	受信時刻	作成時刻	作成者	記事	番號	定	指	發信所	艦送信所
						所	艦	信	受	
						者	信	着		
						者	報	受		
<p>通信文 平文暗號 ( ) 無線有線</p> <p>右各艦の成ルハク速カ内務省ニ引揚ヲ實施シ          与定機證現狀調書各ニ通宛ヲ中央          送付中ニ度</p> <p>一七五五、一七五六、宵梅二七六          一七〇四、一七〇五、一七〇六、一七〇七、一七〇八、一七〇九、一七一〇、一七一〇、一七一一、一七一二、一七一三、一七一四、一七一五、一七一六、一七一七、一七一八、一七一九、一七二〇、一七二一、一七二二、一七二三、一七二四、一七二五、一七二六、一七二七、一七二八、一七二九、一七三〇、一七三一、一七三二、一七三三、一七三四、一七三五、一七三六、一七三七、一七三八、一七三九、一七四〇、一七四一、一七四二、一七四三、一七四四、一七四五、一七四六、一七四七、一七四八、一七四九、一七五〇、一七五一、一七五二、一七五三、一七五四、一七五五、一七五六、一七五七、一七五八、一七五九、一七六〇、一七六一、一七六二、一七六三、一七六四、一七六五、一七六六、一七六七、一七六八、一七六九、一七七〇、一七七一、一七七二、一七七三、一七七四、一七七五、一七七六、一七七七、一七七八、一七七九、一七八〇、一七八一、一七八二、一七八三、一七八四、一七八五、一七八六、一七八七、一七八八、一八八九、一八九〇、一八九一、一八九二、一八九三、一八九四、一八九五、一八九六、一八九七、一八九八、一八九九、一九〇〇、一九〇一、一九〇二、一九〇三、一九〇四、一九〇五、一九〇六、一九〇七、一九〇八、一九〇九、一九一〇、一九一一、一九一二、一九一三、一九一四、一九一五、一九一六、一九一七、一九一八、一九一九、一九二〇、一九二一、一九二二、一九二三、一九二四、一九二五、一九二六、一九二七、一九二八、一九二九、一九三〇、一九三一、一九三二、一九三三、一九三四、一九三五、一九三六、一九三七、一九三八、一九三九、一九四〇、一九四一、一九四二、一九四三、一九四四、一九四五、一九四六、一九四七、一九四八、一九四九、一九五〇、一九五一、一九五二、一九五三、一九五四、一九五五、一九五六、一九五七、一九五八、一九五九、一九六〇、一九六一、一九六二、一九六三、一九六四、一九六五、一九六六、一九六七、一九六八、一九六九、一九七〇、一九七一、一九七二、一九七三、一九七四、一九七五、一九七六、一九七七、一九七八、一九七九、一九八〇、一九八一、一九八二、一九八三、一九八四、一九八五、一九八六、一九八七、一九八八、一九八九、一九九〇、一九九一、一九九二、一九九三、一九九四、一九九五、一九九六、一九九七、一九九八、一九九九、二〇〇〇</p>						分區	整理	者	信	發
0037						整理番號	電波	K.C.		

附表第一 (様式第二)





通信部長  
電信部  
暗號部

副司令長  
常直將校  
關係者

通信參謀  
司令部附

司令長官  
司令官  
參謀長  
首席參謀  
幕僚

海軍電報起案譯文用紙

月	日	受信時刻	作成時刻	作成者	記事	番號	定	指	發信所	受信所
							所	艦	信	受
<p>海三七 (三菱造船) 倉橋 (名古屋造船) 各復ハ右艦船引渡物件目錄ニ通リ二十五日迄ニ到達スル如ク送附サレ度</p> <p>(三、英例ノ希望ニ付送レル様注意スル度)</p> <p>三、輸九及二九ハ第四回引渡艦船監卜等使用</p> <p>右任務終了後引渡又</p>						者	信	着		
						者	報	受		
						分區	理整	者信發		

通信文

平文暗號 ( )

無線有線

附表第一 (様式第一)

0039

整理番號

電波

R.C.

奥復第四二二號

昭和二十二年七月三十日

奥地方復興局總務部長

海防艦艇引渡を左の通り豫定する

七月三十一日 一七〇〇吳着（D二九番浮標に繫留）

八月一日 〇九〇〇打合（〇八三〇總務部發自動車を出す）

場所 艦内

參集者 總務部、管船部、補給部、造修課各一名

艦側 艦長、各科長

二日 目錄作製

四日 物件陳揚

五日 一〇〇〇艦上に於て引渡式 式後乘員退艦

（終）



司令長官  
司令官  
參謀長  
首席參謀  
幕僚

通信參謀  
司令部附

艦長  
(司令)  
副長  
當直將校  
關係者

通信部長  
電信部  
暗號部

海軍電報起案譯文用紙

番號	定指	發信所	受信所
一七	少イナリ		東放
通信文			
所 艦 信 受			
2.4.40619			
者 信 着			
各復 第三回米英 國引渡船			
者 報 受			
分 區 理 整			
者 信 發			
總復 裁員 艦			
附表第一 (様式第一)			

月	日	受信時刻	作 成 者	翻譯時刻	翻譯者
8	19	20	八木	20	八木

整理番號 0041

電 波 4630

R.C.

# 復員廳第二復員局公報

第一〇六號

昭和二十二年四月二十二日(火)  
第二復員局文書課

## ○通 牒

二復總第一三八號

昭和二十二年四月二十一日

復員廳第二復員局總務部長

關係各廳長殿

解撤艦艇引渡要領ノ件通牒

首題ノ件次ノ通り定メラレタカラ了知サレタイ。

解撤艦艇引渡要領

舊海軍艦艇ガ解撤ニ決定シタ場合ノ引渡シ要領ヲ次ノ通り定メ  
ル。

一、第二復員局ニ保管ノ責任ガアル舊海軍艦艇(雜役船ヲ除ク)  
中解撤ニ決定シタモノノ引渡シハ本要領ニヨツテ實施スル

(註) 艦艇トハ特別保管艦、掃海艦艇、行動不能艦  
艇(特及ビ飛行機救難艇、魚雷艇ヲ含ム)及ビ舊陸軍所屬

B 艇、S 艇ヲ言フ)

二、艦艇ガ解撤ニ決定シタラバ中央カラ關係各部ニ次ノ事項  
ヲ指示スル。

(イ) 艦艇名  
(ロ) 搭載物件陸揚場所

復員廳第二復員局公報 第一〇六號 昭和二十二年四月二十二日

艦艇引渡場所

(イ) 艦艇引渡先(造船所名又ハ解撤業者名)

(ロ) 其他必要事項

三、關係地方復員局長ハ右指令ヲ受ケタラバ引渡先所在、都  
道府縣長官知事、財務局長、海運局長、造船所長(又ハ解撤  
業者)ト折衝ノ上引渡豫定(回航ノ必要ガアル場合ハ回航豫  
定ヲ含メル)ヲ中央及ビ關係各部ニ報告通報スル、第二復員  
局ハ右ノ報告ニ依ツテ回航並ビニ引渡期日ヲ指示スル。

(イ) 關係地方復員局長ハ爾後左ニ依リ處理ヲ進メル解撤艦艇  
中自力回航ヲ指令サレタモノハ指定陸揚場所デ引渡地ニ回

航上必要最少限ノモノヲ殘シ消耗品(舊艦艇帶品全部ヲ含  
ム以下同シ)ノ陸揚ヲ行フト共ニ所在聯合軍ト密接ヲ連絡  
ヲ保チ陸揚作業ノ圓滑ヲ實施ヲ圖ルト共ニ聯合軍要求物件  
ノ引渡シヲ行ウ、ロノ場合乘員ハ必要最少限度ノ回航員ヲ  
殘シ他ハ在籍地方復員局ニ復歸サセルカ又ハ關係人事部ノ  
指示ニ依ツテ現地免管解雇スル。

(ロ) 自力回航ガ出来ナイ艦艇ハ現所在地デ引渡スノヲ建前ト  
スル現所在地デ引渡ス場合ハ乘員ハ前項ノ回航員以外ノ者  
ト同様ニ取扱ワコトスル。

(ハ) 艦艇引渡地到着後引渡地管轄地方復員局長ハ所在聯合軍  
要求物件ノ引渡シ並ニ殘存消耗品其ノ他ノ陸揚ヲナン引渡

九三

0042

準備ヲ完成シ引渡終了後同航員ヲ在籍地方復員局ニ復歸サ  
セリ。  
搭載物件ノ引渡標準ハ次ノ通りデアル。

引渡書	書類名	品種					
		糧食	被服	燃料潤滑油	治療品	水路圖誌	消耗品
様式第一	様式	引渡標準			引渡標準		
		艦艇保管、掃海上必要ヲモテハ現地聯合軍ノ許可ヲ得テ陸揚シ其他ノモノハ一旦最寄ノ補給部ニ還納ノ手續ヲシタ後肉務省ニ引渡ス	補給部ニ還納スル、但シ陸揚不能ノモノハ一旦最寄ノ補給部ニ還納ノ手續ヲシタ後肉務省ニ引渡ス				
	通數	提出(送付)先					
寫	寫	寫	造船所長(又ハ解撤業者)				調製者
海運局長	財務局長	都道府縣長官知事	地方復員局長				

(註) 聯合軍ヨリ引渡要求ノアツタ物件ハ必ズ「サイン」ヲ受ケテ引渡シスルモノトスル。

四、引渡シハ關係地方復員局長、引渡先所在都道府縣長官知事、財務局長、海運局長、造船所長(又ハ解撤業者)又ハ夫々ノ代表者立合ヒノ上實施スル。  
關係地方復員局長ハ引渡書(様式第一)ニ現狀調書(様式第二)及ビ引渡物件目録(様式第三)各一通ヲ添エ都道府縣長官知事、財務局長ヲ經テ造船所長(又ハ解撤業者)ニ渡シ寫一通ヲ右引渡立合者ニ渡ス。  
造船所長(又ハ解撤業者)ハ領收書(様式第一ニ準ズ)ヲ財務局長、都道府縣長官知事ヲ經テ關係地方復員局長ニ提出スルト共ニ寫一通ヲ右引渡立合者ニ提出スル。  
調製書類及ビ目録ハ次ノ通りデアル。

SP00

0043





復員第二復員局公報 第一〇六號 昭和二十二年四月二十二日

日 期	艦種別	特別保管艦	行動不能艦艇
第九日		引渡乗員退艦	
第八日		引渡準備完成	
第七日		聯合軍要求物件ノ陸揚	
第六日		物件陸揚	
第五日		引渡造船所ニ回航	引渡保管員退艦
第四日		回航員以外退艦	引渡準備完成
第三日		引渡 聯合軍要求物件ノ陸揚	揚引渡 聯合軍要求物件ノ陸揚
第二日		物件陸揚	物件陸揚
第一日		指定物件陸揚地着諸打合	諸打合

九六

1100

0045



様式第一

引渡書

(艦艇名)ヲ内務省、大藏省ヲ通シ〇〇造船所(〇〇組)ニ引渡シマス

昭和 年 月 日

(昭和二十二年四月二十二日復員廳第二復員局公報)

〇〇地方復員局長

氏 名

職印

〇〇造船所長

氏 名 股

立會人 〇〇都道府縣長官知事氏名印

〇〇財務局長 氏名印

〇〇海運局長 氏名印

7A00

0046

様式第二

(昭和二十二年四月二十二日復員廳第二復員令公報)

(艦艇名) 現狀調書

一、要目

艦種

全長 \_\_\_\_\_ 最大幅 \_\_\_\_\_ 吃水 \_\_\_\_\_

排水量 \_\_\_\_\_ 最大/通常 速度 \_\_\_\_\_

二、各部現狀

- (一) 航海科
- (二) 通信科
- (三) 内務科
- (四) 機關工作科
- (五) 醫務科
- (六) 主計科

(註) 名部不良箇所ヲ詳細ニ記註スル

0047

3400

様式第三

(昭和二十二年四月二十一日復員廳第二復員局公報)

番 號	品 名 Article		數 量	單 位	格 納 場 所	記 事
No.	和 文 Japanese	英 文 English	Quantity	Unit	Store Place	Note

0048

2100

様式第四

(昭和二十二年四月二十日復員廳第二復員局公報)

番 號	品 名 Article		數 量	單 位	記 事
No.	和 文 Japanese	英 文 English	Quantity	Unit	Note

0049

3100